

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00569

研究課題名（和文）動詞の他動性に関するチュクチ語とモンゴル語の比較対照研究

研究課題名（英文）A Contrastive Study of Chukchi and Mongolian on Verb Transitivity

研究代表者

呉人 徳司（KUREBITO, Tokusu）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：40302898

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ロシアのシベリア地域で話されているチュクチ語とモンゴル国と中国で話されているモンゴル語の動詞の他動性に関する比較対照研究を行なった。研究を通して、北東アジアにおいては、動詞の自他対応が使役化という類型に集約しうる可能性が高い一方で、他動性に関しては、動詞の屈折体系により自他の区別が明確になされるチュクチ語がある一方で、形態的に自他の区別がつきにくいモンゴル語があるために、「北東アジア諸言語」として括れない多様性が明らかになったのである。また、能格言語であるチュクチ語と対格言語であるモンゴル語の動詞の結合価の変更のプロセスが互いに異なることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、北東ユーラシアに分布する系統が異なる言語の比較対照研究を行なうことにより、人間文化の一番象徴的な部分であることばの仕組みを理解するのに役立つのである。このような研究の成果は、少数言語への理解を深めるきっかけになり、言語の多様性を認識する社会的意義がある。学術論文のほかに民話集、辞典の出版は消滅の危機に瀕している言語文化の記録・保存に大きな貢献になったと言える。

研究成果の概要（英文）：In this study, I conducted a contrast study of verb transitivity in Chukchi, spoken in Russia, and Mongolian, spoken in Mongolia and China. Through this research, it was found that in Northeast Asian languages, while it is highly likely that the self/other correspondence of verbs can be summed up in the type of declension, there is Chukchi, where the self/other distinction is clearly made by the inflectional system of verbs, and Mongolian, where the self/other distinction is difficult to make morphologically, thus revealing a diversity that cannot be summarized as “the languages of Northeast Asia. This is the reason why the diversity of the languages of Northeast Asia cannot be summarized as “the languages of Northeast Asia”.

研究分野：言語学

キーワード：チュクチ語 モンゴル語 比較対照研究 動詞の他動性 動詞の結合価 動詞の自他 使役 受け身

1. 研究開始当初の背景

中国の北部と北東部、モンゴル国そしてロシアのシベリア地域には、類型的に類似性が高くかつては系統関係も指摘されていたモンゴル語をはじめとするアルタイ諸語と、系統的にも類型的にも異なる言語の寄せ集めである古アジア諸語が分布している。

日本では北東アジア諸言語の記述研究がこの 30 年ほどの間に飛躍的に発展し、多くの成果が生まれている。それ以前には政治的・社会的な理由で現地調査調査の実施がほぼ不可能だった国々に行き、多くの言語が掘り起こされ、記述研究を進めることができるようになった。そのため個別の言語の記述にとどまらず、異なるタイプの言語に対する比較・類型的研究も進展し、言語類型論への寄与も可能にしつつある。ちなみに、本研究の代表者はロシアのシベリア地域で話されているチュクチ語とモンゴル国、中国で話されているモンゴル語の記述研究を通して、北東アジアの諸言語の類型論的視点からの比較をおこなう必要性を認識し、2018 年～2023 年度まで「動詞の他動性に関するチュクチ語とモンゴル語の比較対照研究」という研究題目で、異なるタイプの二つの言語の動詞の他動性に関する形態論を中心にすえた研究を行なった。具体的に言えば、ヴォイスや結合価にかかわる動詞の自他の対応関係を中心に動詞の他動性の問題が設定された。

2. 研究の目的

本研究は研究対象とする言語が話されているロシア、モンゴル国、中国に行き、現地調査を通じて一次資料を収集し、系統と類型的に異なる両言語の動詞の他動性を解明することを目的としている。北東アジアという地域にはアルタイ諸語と古アジア諸語という異なる言語グループが分布しており、その間に研究の大きなギャップがあった。本研究は今まで言われてきた「北東アジアの言語では使役化が優勢である」という見解に着目して両言語グループを合わせて研究対象としており、語族を越えた言語の動詞の自・他ならびに他動性における共通性や相違性の解明が可能になることである。具体的にはチュクチ語とモンゴル語については、自動詞と他動詞の関係、使役と受け身の問題を解明するものである。チュクチ語については、使役接の種類によって、強制的度合いに差異が生じることを解明し、複統合語における動詞の他動性に関する理論研究に貢献することである。モンゴル語については、動詞の使役と受け身について、通時と共時という二つの視点から分析を行ないし、さらに同じ系統の言語であるブリヤート語、東部ユグル語、ダグル語の動詞の他動詞についても研究を行ない、アルタイ諸語の比較対照研究に貢献するものである。

3. 研究の方法

本研究は北東アジア諸言語の記述というミクロな研究を言語類型論というマクロな研究とリンクさせることにより、通言語的コンテキストの中で個々の言語をとらえようとするものである。本研究では動詞の自他対応ならびに他動性をめぐるチュクチ語とモンゴル語の特徴に関し、言語類型論的観点から相互に比較対照することを目的とするが、これを達成するために、次のような 2 段階の研究の方法をとった。調査対象地域であるロシア、中国、モンゴル国に行き、現地調査により一次データを収集し、そのデータの整理・分析を行なう。研究代表者の今までの研究の成果のほかに、必要に応じて北東アジア地域の研究の成果を参考にし、両言語の動詞の自・他の対応と他動性をめぐる類型論的位置づけを画定する。

4. 研究成果

本研究はロシアのシベリア地域で話されているチュクチ語とモンゴル国、中国で話されているモンゴル語の動詞の他動性に関する比較対照を行なうものであり、研究期間を延長して 5 年間行われた。5 年間の研究を通じて、北東アジアにおいては、動詞の自他の対応が使役化という類型に集約しうる可能性が高い一方で、他動性に関しては、動詞の屈折体系により自他の区別が明確になされるチュクチ語があるのに対して、形態的に自他の区別が付きにくいモンゴル語があり、「北東アジア諸語」として括れない多様性が明らかになったのである。能格言語であるチュクチ語と主格・対格型の言語であるモンゴル語とは動詞の結合価の変更のプロセスが互いに大きく異なることを明らかにした。チュクチ語については、使役、逆受動、逆使役構文の解明を行ない、使役接辞の種類によって、強制的度合いに差異が生じることを解明し、その成果をロシアで開催された国際学会で発表したほか、日本語で論文として執筆した。またチュクチ語の民話にロシア語訳を付け、二冊の本として出版し、テキスト分析を進め、今後の研究に利用できるようにした。モンゴル語については、動詞の使役と受け身について、通時と共時という二つの視点から分析し、その成果を中国、ロシア、モンゴル国で開催された国際学会で発表し他ほか、日本語で論文として執筆した。

動詞の自他の対応関係に関する研究は言語学の大きなテーマであるため、本研究の範囲を広げ、モンゴル語の方言、さらに中国領内の東部ユグール語、ダグル語の動詞のヴォイスについても研究を行ない、その成果をロシア、モンゴル国、中国で開催された国際学会で発表したほか、日本で論文として執筆した。もう一つの研究成果はロシアのシベリア地域で話されているモンゴル諸語の一つであるブリヤート語の逆引き辞典を監修し、出版した。

本研究がスタートして二年も経たないうちに各国でコロナウイルスが流行したため、二年以上に亘り、ロシア、モンゴル国、中国に行き、現地調査がまったく不可能になるという不利な状況に置かれた。コロナウイルス感染が収まると、今度ロシアのウクライナ侵攻が始まり、ロシアへの渡航が4年間実現できなかった。コロナウイルス感染が収まってからモンゴル国でモンゴル語のダルハド方言の動詞の他動性について聞き取り調査を行なうことができ、その成果をモンゴル国で開催された学会で発表した。

このように、本研究を実施するのに支障をきたす予想外のことに起きたが、研究活動を通じて成果をあげることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tokusu KUREBITO	4. 巻 1
2. 論文標題 Vocabulary of traditional Chukchi clothing	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Language Documentation in Northeast Asia	6. 最初と最後の頁 64-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 呉人徳司	4. 巻 5
2. 論文標題 ロシア、モンゴル国、中国に居住するブリヤート人とその言語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承	6. 最初と最後の頁 127-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 呉人徳司	4. 巻 9
2. 論文標題 チュクチ語における使役について 強制の度合いの差異と形態統語的ふるまいの相関性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 呉人徳司	4. 巻 4
2. 論文標題 ダグル語のチチハル方言に関する現地調査の報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代中国における言語政策と言語継承	6. 最初と最後の頁 76-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 & #1199; & #1199; & #1199; (呉人徳司)	4. 巻 Tom.
2. 論文標題 " & #1257; & #1257; & #1257; & #1257; & #1199; & #1199; " - & #1199; & #1199; & #1199;	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Chinggis Khaan Museum	6. 最初と最後の頁 164-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 " " " " & #1199; :
3. 学会等名 Chinggis Khaan's World: Mongol Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 The Importance of Studying Mongolian dialects: Based on the example of Darkhad dialect
3. 学会等名 Current situations and future trends in Mongolian literacy, culture and use of dialects among Mongolian ethnic groups (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tokusu KUREBITO & Jargal BADAGAROV
2. 発表標題 :
3. 学会等名 International Scientific and Practical Conference "East-Arctic: languages, culture and education" (Northeast Federal University, Russia, Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Looking back on Mongolian dictionaries published in Western countries from the 19th Century to the 20th Century
3. 学会等名 International Symposium on Languages, Literature and Translation of Languages of Countries along the "Silk Road" (中国西北民族大学、オンライン方式)) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 ロシア、モンゴル国、中国に居住するブリヤート人とその言語
3. 学会等名 第八回日中国際ワークショップ「現代中国における言語政策と言語継承—しょうすうを中心に—」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 チュクチ語における接周辞について
3. 学会等名 リンディフォーラム：ウェビナーシリーズ(5)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 ロシアのシベリア地域で話されているチュクチ語の保存と継承
3. 学会等名 第15回NINJALフォーラム「日本とアジアの消滅危機言語 私たちはいま、何をしなければならないか」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Rethinking the voice of Mongolian verbs through a comparative study of Mongolian dialects
3. 学会等名 International Conference: Studies on Grammatical Categories in Mongolian Language (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Language Technologies for Chukchi: Developing Keyboard Drivers Based on Documentation Materials
3. 学会等名 International Conference on Preservation of Languages and Development of Linguistic Diversity in Cyberspace: Context, Politics, Practices (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 The importance of narrowing the terminological gap between the Mongolian-speaking peoples
3. 学会等名 International symposium on Terminology of the Mongolian-speaking people (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Documentation of Siberian Indigenous Languages: The case of Chukchi,
3. 学会等名 The International Year of Indigenous Languages 2019: Perspectives Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 A comparative study of the transitivity and voice of Mongolian and kalmyk
3. 学会等名 Third International conference: Actual problems of Mongolian and Altaic studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Current Status of Indigenous Languages in the Siberia, Russia: Focusing on Chukchi ',
3. 学会等名 The 3rd International Symposium on Language Resources and Intelligence (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Observing Mongolic Languages from the Perspective of Typology
3. 学会等名 モンゴル諸語に関するリレー講演 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 "One ethnic group becomes two language groups: Eastern Yugur and Western Yugur
3. 学会等名 Inteenational Altay Communities-VII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Passive expressions in the Secret History of Mongols and its historical change
3. 学会等名 The first International Conference of the Secret History of Mongols (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 The Current State of the Western Buryat Language
3. 学会等名 The 16th Annual Conference of the International Association of Urban Language Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 呉人徳司
2. 発表標題 Diversity of the valency-changing in Chukchi
3. 学会等名 International Conference on Uralic, Altaic and Paleoasiatic languages in memory of A.P.Volodin (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Tokusu KUREBITO & Jargal BADAGAROV	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所	5. 総ページ数 101
3. 書名 Language Documentation in Northeast Asia	

1. 著者名 呉人徳司 & O. Ochirbat	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 187
3. 書名 トド文字文献資料	

1. 著者名 伊・達瓦 & 呉人徳司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 159
3. 書名 オイラド・モンゴル文字と伝統文化	

1. 著者名 Jargal badagarov (編)、呉人徳司 (監修)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所	5. 総ページ数 492
3. 書名 A Reserse Dictionary of Buryad	

1. 著者名 (呉人徳司)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所	5. 総ページ数 309
3. 書名	

1. 著者名 (呉人徳司)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所	5. 総ページ数 177
3. 書名	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1) 北東ユーラシアの少数言語の語彙集、民話資料をデータベース化し、言語資源の保存と利用を目的としてウェブサイトを立てた。URLは以下の通りである。 https://hokuto-asia.aa-ken.jp/</p> <p>2) モンゴル国科学アカデミー言語文学研究所と共同で2018年8月に「Terminology of the Mongolian-speaking Peoples」という国際学会を開催、モンゴル国、中国の内モンゴル自治区、ロシア連邦のブリヤート共和国で使われている術語の類似点と相違点に焦点を当てた議論・討論を行なった。</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------